

グループ全職員のみなさまへ

921台湾大震災に対する
災害医療協力報告(10/10)

本日10月10日朝の時点での台湾で活動中のTDMAT(徳洲会災害医療協力隊)メンバーの活動の報告と今日の予定をごいたします。みなさん怪我もなく無事に活動しています。

TDMAT(徳洲会災害医療協力隊)の行動

10月9日の活動

東勢国民小学校避難所診療班

診療者数 112名(内科92外科20)(呼吸器51消化器16慢性7外傷20その他11)
テント生活の被災者を中心に風邪が増えている。

新盛国民小学校避難所(午前) 石城小学校避難所(午後)診療班

診療者数:新盛 17名(内科13、外科4)(呼吸器9,消化器2,外傷4,vaccine4)
石城 29名(呼吸器17,消化器2,慢性疾患2,外傷0,その他4,vaccine4)

旧814陸軍病院跡地診療班

診療者数 50名(呼吸器8,消化器17,慢性疾患1,外傷17,その他7)

仮設住宅建設中のため兵士の受診が多い。今日、神戸で使っていた仮設住宅が届いた。下痢が15人発生している。衛生局が全例便培養をとった。文民優先のため軍人は入院しにくいので衛生環境が悪い。軍医が必ずしも医師ではない場合がある。

お知らせ事項

【衛生局との面談】

衛生局と撤退にあたっての意見交換が10月10日朝にもたれます。徐、清水、小芝各先生が参加されます。

【長庚病院主催帰国レセプション】

10月11日に長庚記念病院院長より徳洲会とTDMATメンバーに対する感謝会の催しが開催されることとなりました。当日可能なメンバーが参加します。

【日本人通訳が参加】

台北の大学院生、木村さん(日本人)が通訳として参加していただきました

【今後の予定】

10月10日より新盛小学校 石城小学校班は無くなり、前者の診療所はなくなり、後者は長庚病院スタッフにお願いすることになります。

10月11日より旧814陸軍病院跡地避難所診療所も撤退以後は長庚病院スタッフが担当します。

10月12日より東勢国民小学校診療所のみとなり、16日最終的に撤退します。

【帰国メンバー予定】

10/10帰国予定者には栗間、天野、斎藤、亀山、鈴木、萩原、宮島、吉の8名です。

10/11には小芝、村井各隊員が帰国予定です。

帰国予定は当初から2週間以上としてお願いしておりますが、現地と所属病院の事情を合わせて本人の希望のもとに決めています。

帰国された隊員のみなさんには、1.報告書の提出、2.写真などの資料の提出、3.所属病院での報告会の開催、4.学会報告準備をかねた全体の総括報告会の開催への出席、の4点をお願いしております。

【】

10月10日の各班の行動予定

第A班 東勢国民小学校避難所派遣

阿部 好弘	医師	鹿児島	
栗岡 宏彰	医師	宇治	
松元 陽一	医師(小児科)	岸和田	
野沢 敏昭	看護師	鎌倉	
根笹 智江	看護婦	札幌東	
浦里 博史	看護師	神戸	
張 羣	薬剤師	中部	7名

第B班 旧814陸軍病院跡地診療所(仮設住宅)

竹内 克彦	医師(内科)	大和	
村井 政史	医師	鎌倉	
財 紀代	看護婦	鹿児島	
倉田 真紀子	看護婦	札幌東	
山崎 宏和	看護師	大和	5名

第C班 衛生局との会合

徐 嘉英	医師	羽生
清水 徹郎	医師	札幌
小芝 章剛	医師	札幌東

第E班 東勢国民中学校ベースキャンプ

橋爪 慶人	医師	岸和田
渡辺 英樹	ME	鎌倉

第F班 長庚記念医院

青木 重憲	医師	茅ヶ崎
劉 孟娟	医師	名瀬
近藤 芳憲	看護師	鎌倉
中村 燈喜	医師	宇治
田原 代志枝	看護婦	千葉西(コーディネート業務)

帰国

天野 知徳	医師	宇治
亀山 賢司	薬剤師	鎌倉
栗間 孝之	看護師	札幌
斉藤 喜博	ME	札幌
宮島 康彰	看護師	八尾
鈴木 論貴	放射線技師	千葉西
吉 紀三	看護師	名瀬
荻原 省武	薬剤師	福岡

事務局便り：

現地ベースキャンプの引き上げ、メンバーのローテーションなど最終の指揮系統の引継のため、10/8朝、中村燈喜が、同日夜橋爪慶人が長庚記念病院に入りました。したがって、本部事務局は常設秘書の富岡加代子さん一人となります。電子メール、web上の報告などが少し滞ると思いますが、ご了承下さい。

東勢被災地便り：

当初のテント生活に比べ現在のベースキャンプは格段に居住空間が改善して、昨日より水もガスも使えるようになりました。毎日7時起床、7時30分に10分ほど歩いて長庚病院ベースに行き朝食後、救急車で各診療所に。昼食はベースから弁当が配られ、午後6時ごろ個々にベースで夕食をとり、シャワーを浴び8時から1~2時間のミーティングの後、自由時間です。普段逢えない他病院のスタッフとの横の繋がりも副次的な成果です。

NHKがやっと本格的な取材に入りました。最も死亡者が出たのに震災当時忘れ去られていた東勢の状況と復興を1ヶ月間追っていくそうです。

今後、この東勢地域の復興状況を定期的に追っていくことも、TDMATの災害医療協力の今後の行動と反省となります。ぜひ実現したいものです。

